

平成29年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査実施概要

(1) 対象学年

- ・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(2) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技調査 (小学校、中学校ともに8種目で実施
小学校は20mシャトルラン、中学校は持久走と20mシャトルランから選択)

体力テスト種目	単位	体力要素	測定
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値
② 上体起こし	回	筋パワー ・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
⑤-1 持久走	秒	全身持久力 ・長距離走能力	男子1500m、女子1000m の走行時間
⑤-2 20mシャトルラン	回	全身持久力	20m走行の折り返し回数
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50mの疾走時間
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー ・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
⑧ ソフトボール投げ ・ハンドボール投げ	m	巧緻性 ・投球能力	ソフトボールを遠投した距離(小学校) ・ハンドボール2号を遠投した距離(中学校)
体力合計点	点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点	
総合評価	5段階	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価	

イ 質問紙調査 (運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査)

② 学校に対する質問紙調査 (子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査)

③ 教育委員会に対する質問紙調査 (子どもの体力向上に係る施策等に関する質問紙調査)

(3) 調査実施期間

平成29年4月から7月末まで

(4) 本県の調査学校数(公立学校)・児童生徒数

	学校総数	調査実施校数	標本数
■公立小学校	233	231	13,470 (男:6,991 女:6,479)
■公立中学校	111	110	12,683 (男:6,519 女:6,164)

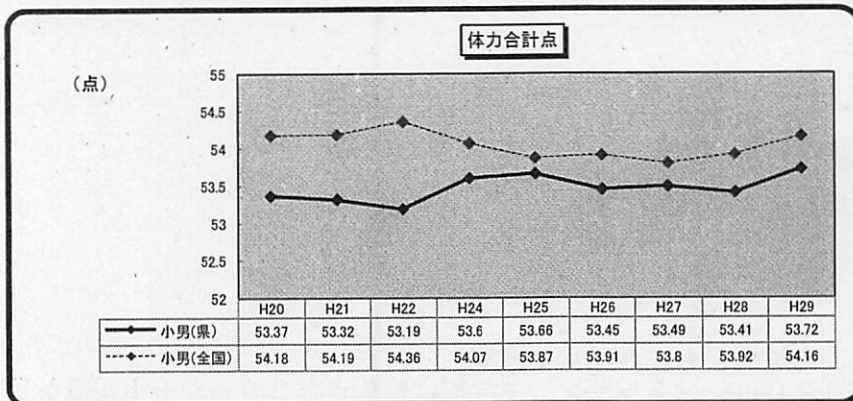
2 調査結果の概要

(1) 体力・運動能力調査

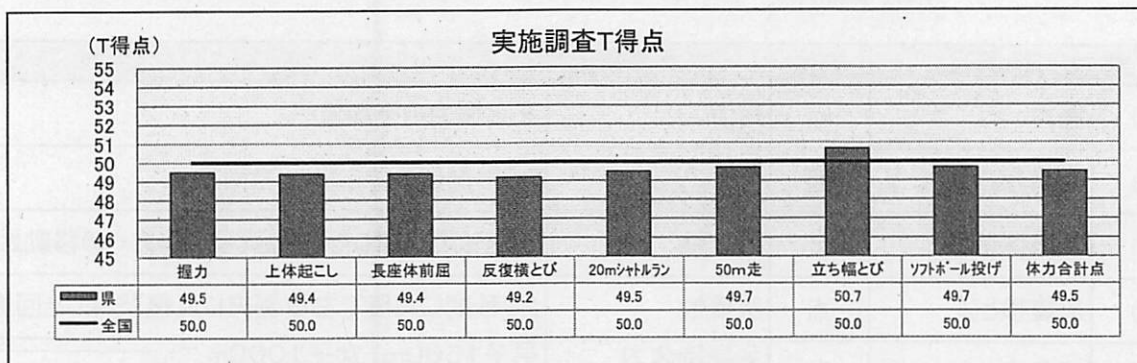
① 県の体力合計点の推移(全国公立学校との比較)

【小学校5年男子 体力合計点】

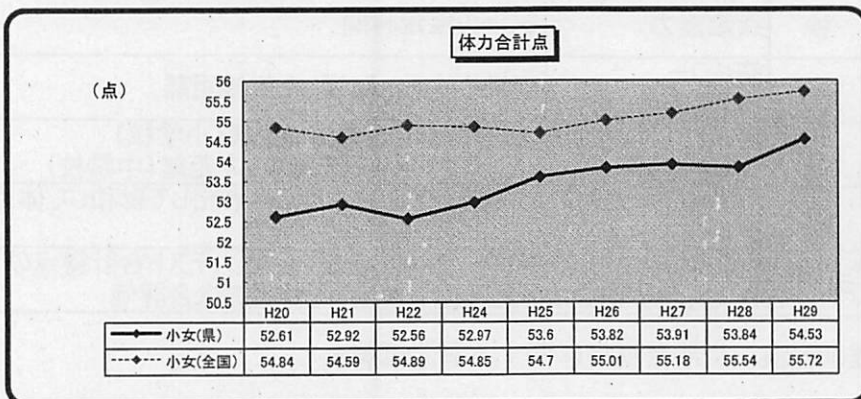
T得点 全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するもの。平均値50点。



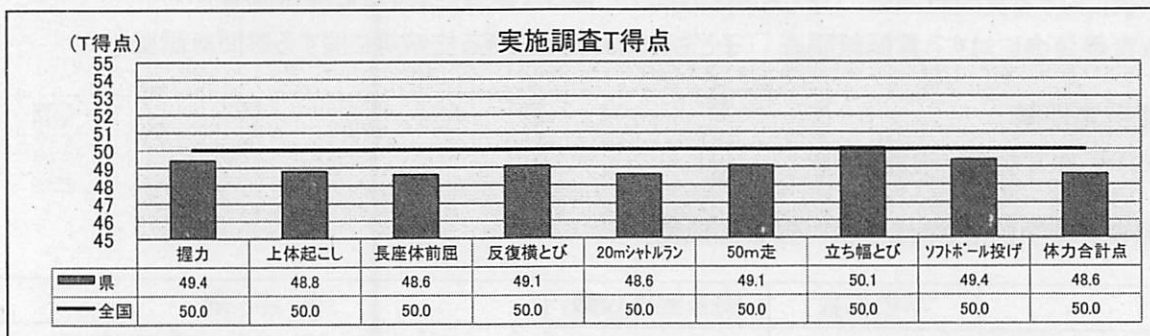
○体力合計点は全国平均値を0.44点下回ったが、本調査を実施して以降、過去最高値となった。
○立ち幅跳びのみ全国平均値を上回った。



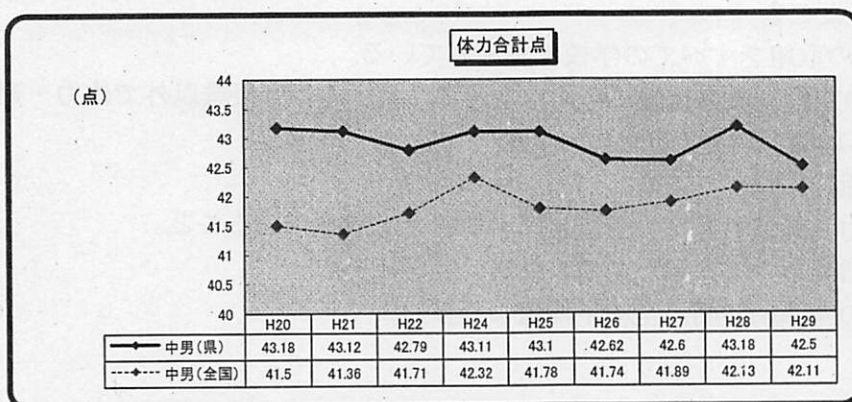
【小学校5年女子 体力合計点】



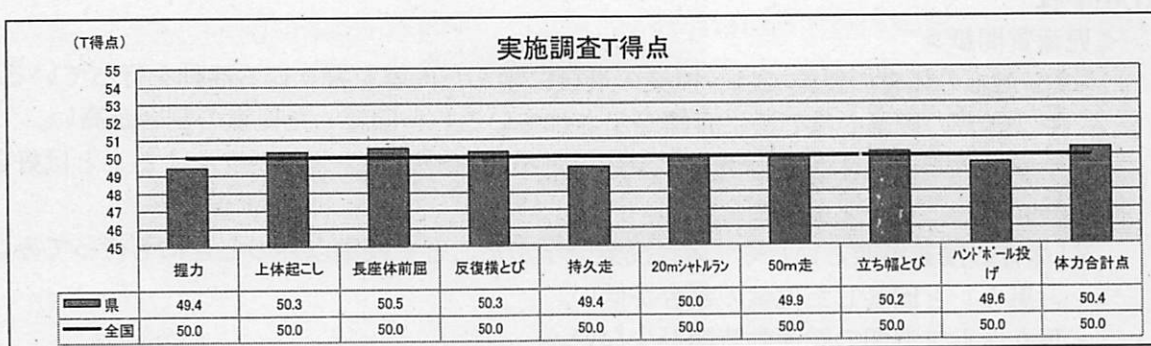
○体力合計点は全国平均値を1.19点下回ったが、本調査を実施以降、過去最高値となった。
○立ち幅跳びのみ全国平均値を上回った。



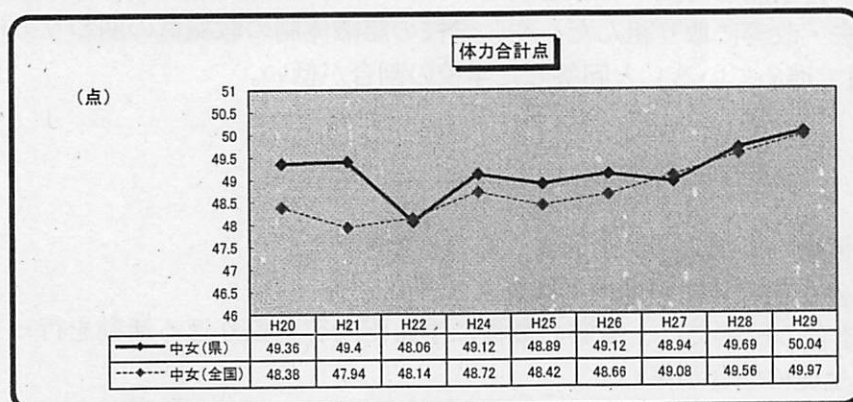
【中学校2年男子 体力合計点】



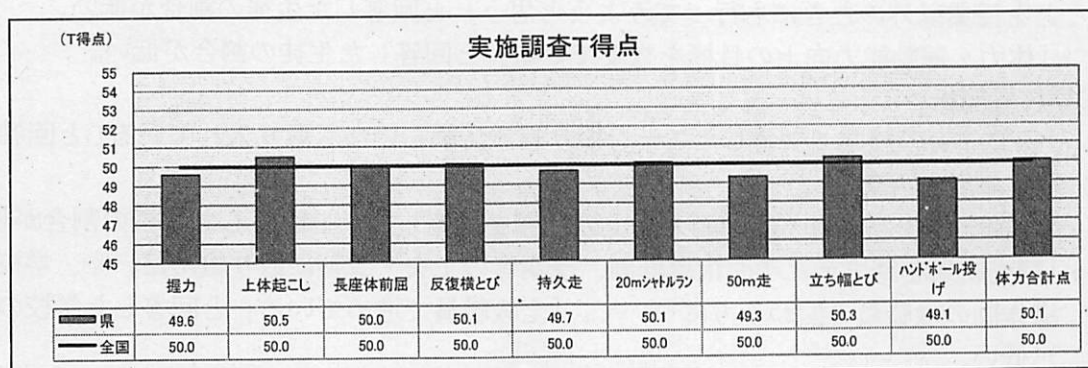
○体力合計点は全国平均値を0.39点上回ったが、本調査を実施して以降、過去最低値となった。
○上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びの4種目で全国平均値を上回った。



【中学校2年女子 体力合計点】



○体力合計点は全国平均値を0.07点上回り、本調査を実施して以降、過去最高値となった。
○上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの4種目で、全国平均値を上回った。



②体力・運動能力調査結果のポイント

- ア 小学校の体力合計点が男女ともに、全国平均値よりも依然として下回っているものの過去最高値となったこと
- ・「健やかタイム」の取組をすべての学校で実施している。
 - ・活動を行う上での施設や環境整備に努め、全児童に対する体育授業以外で体力・運動能力の向上に係る取組を進めている。
 - ・体育的行事を積極的に行っている。
- イ 中学校では、体力合計点が男女ともに全国平均値を上回っていること
- ・男女とも運動部活動への加入率が全国より高い状況にある。
 - ・男女とも1週間の総運動時間が全国平均値より多い。

(2)運動習慣等調査

①小学校

<児童質問紙>

- ・「ふだんの体育の授業では、授業の最後に学んだ内容を振り返る活動を行っている」や「体育の授業のはじめに目標が示されている」と回答した児童の割合が高い。
- ・「小学校入学前は体を動かす遊びが好きだった」や「運動やスポーツをすることは好き」と回答した女子児童の割合が低い。
- ・「体育の授業が楽しい」や「体育授業で学んだことを授業以外のときにも行ってみようと思う」と回答した児童の割合が低い。
- ・男女とも1週間の総運動時間が少ない。

<学校質問紙>

- ・「活動を行う上での施設や環境整備における工夫をした」と回答した学校の割合が高い。
- ・「学校全体の体力・運動能力向上の目標を設定した」、「調査結果を踏まえた年間指導計画、授業等の工夫・改善に取り組んだ」や、学校の組織体制の教職員の関わり方について、「全教職員で進めている」と回答した学校の割合が低い。

②中学校

<生徒質問紙>

- ・男女とも運動部活動への加入率が全国より高い状況にある。
- ・男女とも1週間の総運動時間が全国平均値より多い。
- ・「ふだんの保健体育の授業では、授業の最後に学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した生徒の割合が高い。
- ・「運動やスポーツをすることは好き」、「体育の授業が楽しい」、「体育授業で学んだことを授業以外のときにも行ってみようと思う」と回答した生徒の割合が低い。
- ・「体力・運動能力向上の目標を立てている」と回答した生徒の割合が低い。

<学校質問紙>

- ・「保健体育の授業で学習したことを振り返る活動をいつも取り入れている」と回答した学校の割合が高い。
- ・「学校全体での体力・運動能力向上の目標を設定した」と回答した学校の割合が低い。
- ・「調査結果を踏まえた年間指導計画、授業等の工夫・改善に取り組んだ」や、学校の組織体制の教職員の関わり方について、「全教職員で進めている」と回答した学校の割合が低い。

3 調査結果から見える課題

(1) 小学校

- ① 小学校の体力合計点が男女ともに、全国平均値よりも依然として下回っている。
- ② 男女ともに握力、ソフトボール投げで過去の数値と比べると全国平均値同様に、依然低い状況にある。
- ③ 運動や運動遊びに意欲的に取り組む態度が十分に育っていない。
- ④ 学校全体として、調査結果を踏まえた計画的な取組が十分に行われていない。

(2) 中学校

- ① 男子は握力、ハンドボール投げで全国平均値同様に低下傾向が続いている。
- ② 女子は50m走、ハンドボール投げで全国平均値との差が大きい状況にある。
- ③ 運動やスポーツを行うことの必要性や楽しさへの認識が低い。
- ④ 学校全体として、調査結果を踏まえた計画的な取組が十分に行われていない。

4 今後の改善への取組

(1) 課題のある種目への重点的な取組

①小学校

- ・課題である握力、投力を高める運動（遊び）や授業改善に取り組む。
握力→低学年の遊具を使った運動遊びを促進していく。
投力→投げる動作を身に付けていくための授業づくりを行っていく。
走力→「体力向上のための知恵袋」（県総合教育センター）を活用し、走る力の向上に取り組む。

②中学校

- ・課題である握力、投力、走力を高める運動や授業改善に取り組む。
授業開始時に課題種目の動きを高める運動を導入

(2) 運動（遊び）・スポーツへの愛好的態度を育てる取組

- ・幼児期から運動遊びを促進するため、市町幼児教育主管課との連携した取組を推進する。
- ・「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり」を重視した授業改善を図るための研修会や「教員の資質向上・指導力強化」の研修会を実施する。

(3) 組織体制の改善に向けた取組

- ・各学校の課題を踏まえた具体的な目標を設定し、学校全体の課題として取り組んでいけるように、小学校では子どもの「体力向上プラン」、中学校では「PDCAシート」の改善を図り、組織体制の見直しに努める。

(4) 運動習慣の確立に向けた取組

- ・「保健」等の授業で、運動の必要性やその効果について計画的に指導できるように年間計画の見直し、改善を図る。
- ・小学校で取り組んでいる「健やかタイム」の充実に向けたプログラムを開発する。
- ・小学校でのチャレンジランキングの取組を推進する。

(5) 家庭・地域との連携した取組

- ・保護者用情報誌「教育しが」や各学校の通信等で保護者、地域への情報発信（運動紹介）を行い、家庭や地域での運動遊びの推進に努める。